

世界農業遺産への認定をめざして



峡東地域の扇状地に適応した 果樹農業システム



山梨県峡東地域
山梨市
笛吹市
甲州市

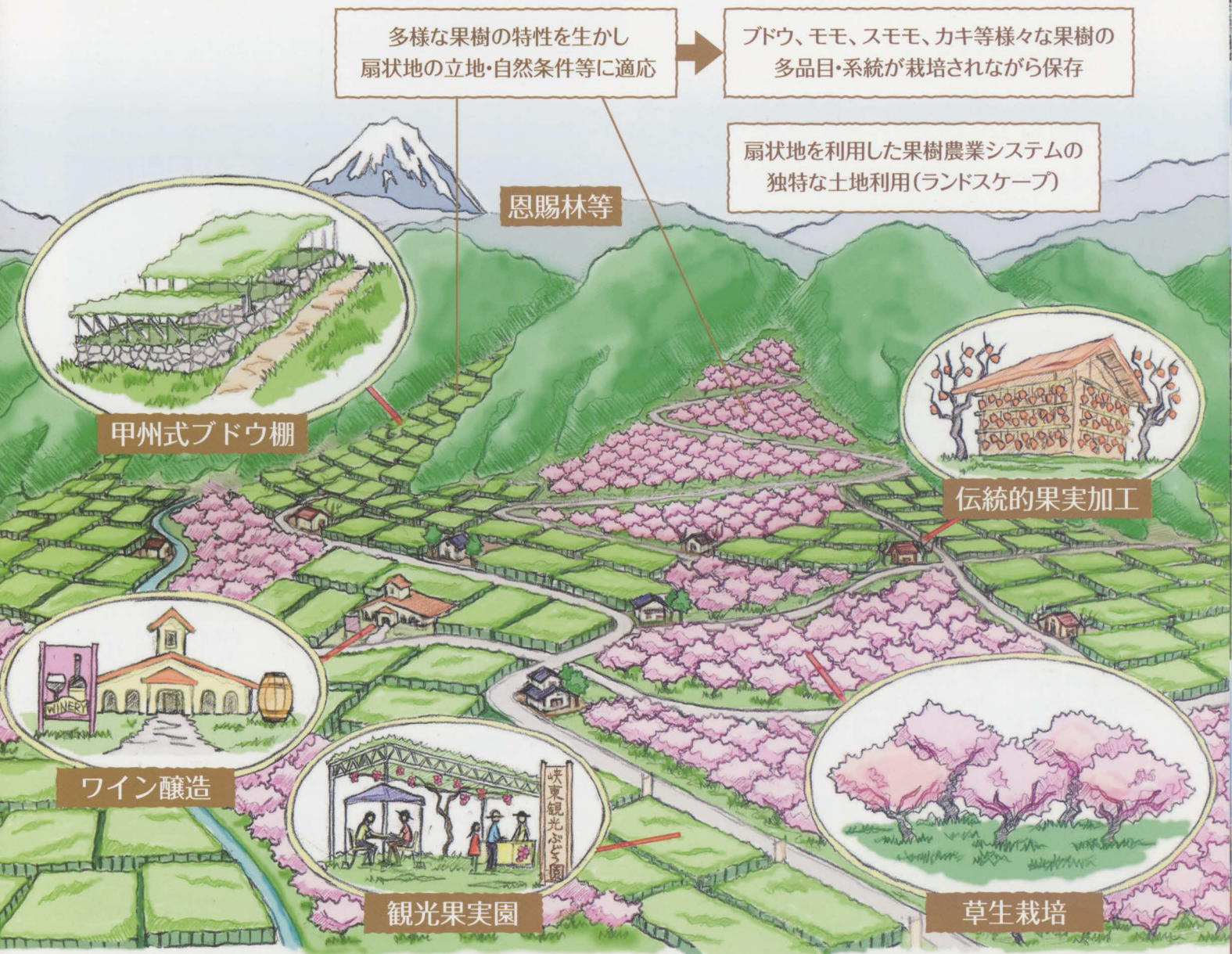
峡東地域の扇状地に適応した果樹農業システムの概要

峡東地域の農地の多くは扇状地にあり、不整形で狭く、傾斜や起伏、土壌などの立地条件は様々です。

農家は、扇状地という立地条件や多雨・湿潤な自然条件に適応できる作物としてブドウ、モモなどの落葉果樹の栽培を行ってきました。

適地・適作により、扇状地の条件に適応し効率的に利用する独特の土地利用を行うことで、世界トップレベルまで果実の高品質・高付加価値化を進めることにより、収益性の高い農業経営を実現しています。

長い歴史の中で、峡東地域の農家の知恵と工夫、努力により、小規模な家族経営農家の暮らしを安定的に支えることが可能な、優れた果樹農業システムが築き上げられています。



峡東地域世界農業遺産推進協議会 (事務局：甲州市農林振興課内)

山梨市 農林課
電話：0553-20-1379

笛吹市 農林振興課
電話：055-261-2033

甲州市 農林振興課
電話：0553-32-5092

山梨県 農政総務課
電話：055-223-1583

Facebook：<https://www.facebook.com/峡東地域世界農業遺産推進協議会-1788916727998235/>

将来にわたり守り継承しなければならない峡東地域の果樹農業システム 「果樹の農業生物多様性」

多品目、多品種・系統の果樹栽培

峡東地域は、日本のブドウ栽培発祥の地とされ、その歴史は800年前とも1300年前とも伝えられ、モモやカキも古くから栽培されていたという記録が残っています。

栽培される果樹の品目は、ブドウ、モモ、スモモ、カキなど10品目以上、品種・系統数に至っては300以上と豊富な生物多様性を有しています。

この多様性は、複雑で変化に富んだ扇状地の立地や気象条件への適応、気象災害リスクの軽減及び労働力の分散などにつながり、小規模な農家の生計の安定に重要な役割を果たしています。



峡東地域で栽培されている主な果樹の品種・系統数

品目	品種・系統数	峡東地域で育成・選抜された品種・系統数
ブドウ	148種	38種
モモ	86種	32種
スモモ	45種	5種
オウトウ	53種	4種
カキ	13種	1種
合計	345種	80種

※この5品目以外にもウメ、リンゴ、キウイフルーツ、ナシ、クリ、ブルーベリーなどが栽培されています。

地域に自生する草種を利用した草生栽培

果樹園やその周辺は、人々が営む農業生産活動が生物多様性に関係し、多様な生物が生息する場となっています。中でも果樹園の地表面管理として行われている、地域に自生する草種を用いた草生栽培は、傾斜地での雨水による土壌流亡防止や土壌への有機物補給などの効果とともに、植物や昆虫の生息できる多様な環境をつくり、果樹園の生物多様性に寄与しています。



果樹園内に生物多様性を育む環境

植物:269種 昆虫:550種*



※植物・昆虫種の数：2015年及び2017年生物相調査結果

将来にわたり守り継承しなければならない峡東地域の果樹農業システム 「伝統的な知識システム」

甲州式ブドウ棚

峡東地域の果樹農業システムが発展する過程で、狭い農地で安定した果実生産を行うための技術が開発され、中でもブドウの棚栽培は、日本の多雨・湿潤でブドウ栽培に適さない気候の中で、安定したブドウ生産を行うために、400年以上前に開発された独創的な適応技術であり、現在は日本のブドウ栽培のスタンダードとなっています。



きめ細かな管理による世界最高水準の高付加価値化

日本人の味覚の繊細さと果実に大きさや外観等の品質を求める独特の価値観を背景に、食味、大きさ、外観とも世界でも最高水準の果実を生産するきめ細かい栽培技術が発達しています。

例えば、ブドウでは果房の整形(房づくり)と果粒数の調整(摘粒^{てきりゅう})、傘かけ・袋かけなど、モモやスモモでは摘蕾^{てきらい}、摘花、摘果、傘かけ・袋かけなどがあります。



ブドウの房作り



モモの摘花

果実加工や観光利用

約400年前に始まったといわれる「^{ころがき} 枯露柿」に代表される果実加工、果樹の観光利用(観光果実園)及び果実直売は、果実の付加価値を高め、農家の生計や地域経済の安定を図るために、先人の知恵と工夫、努力から生まれた適応技術です。

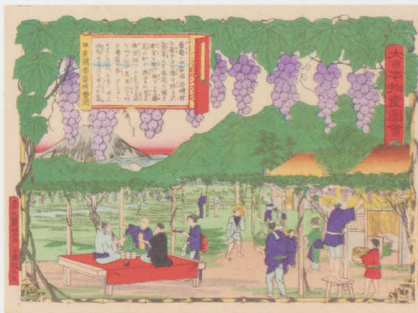


枯露柿の生産

枯露柿は、「^{こうしゅうひやくめ} 甲州百目」と呼ばれる峡東地域の在来品種の渋柿を原料として作られる干し柿で、収穫、皮むき、縄がけ、吊るし、粉出しなど数多くの工程が伝統的な加工技術として継承されています。

この作業のほとんどは手作業で行われており、高級干し柿として全国的に知られ、一部はアジア地域など海外への輸出も行われ、その品質の高さは海外でも高く評価されています。

峡東地域における観光農業は、江戸時代の宿場町として栄えた甲州市勝沼町において、往来する旅人に対し、特産のブドウや加工品等を販売したことがその始まりといわれ、現在の観光ブドウ園の原形となる「ブドウ見学」は、明治27年に甲州市の「宮光園」で始まったといわれています。



大日本物産図会 甲斐国葡萄培養図
出典)山梨県立博物館



大正時代の観光園(宮光園)



峡東地域の果樹農業システムの特徴の一つであるワイン醸造は、約140年前から行われており、ワイン原料用ブドウを生産する農家とワイナリーは密接に関わり合いながら発展してきました。

峡東地域におけるワイン生産は、「甲州」など生食用のブドウを原料に用いていること、農家自らがワイン生産を手がけたことから現在でも小規模なワイナリーが数多くあることが大きな特徴です。

世界的に重要な課題、現代的な課題への貢献 「持続可能な開発目標(SDGs)との関連」

SDGsとは

2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標です。

持続可能な世界を実現するための17の目標・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さないことを誓っています。

峡東地域の果樹農業システムは、17の目標のうち、次の9の目標に関連して、SDGsの達成など世界的・現代的な課題に貢献できると考えられます。



2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です



将来にわたり守り継承しなければならない峡東地域の果樹農業システム 「扇状地に適応した独特なランドスケープ」

複雑な立地条件に適応した巧みな土地利用

峡東地域の農家は、長年の経験から蓄積された知識により、複雑な扇状地の特性や環境に順応する果樹を適地・適作して、農業を持続してきました。

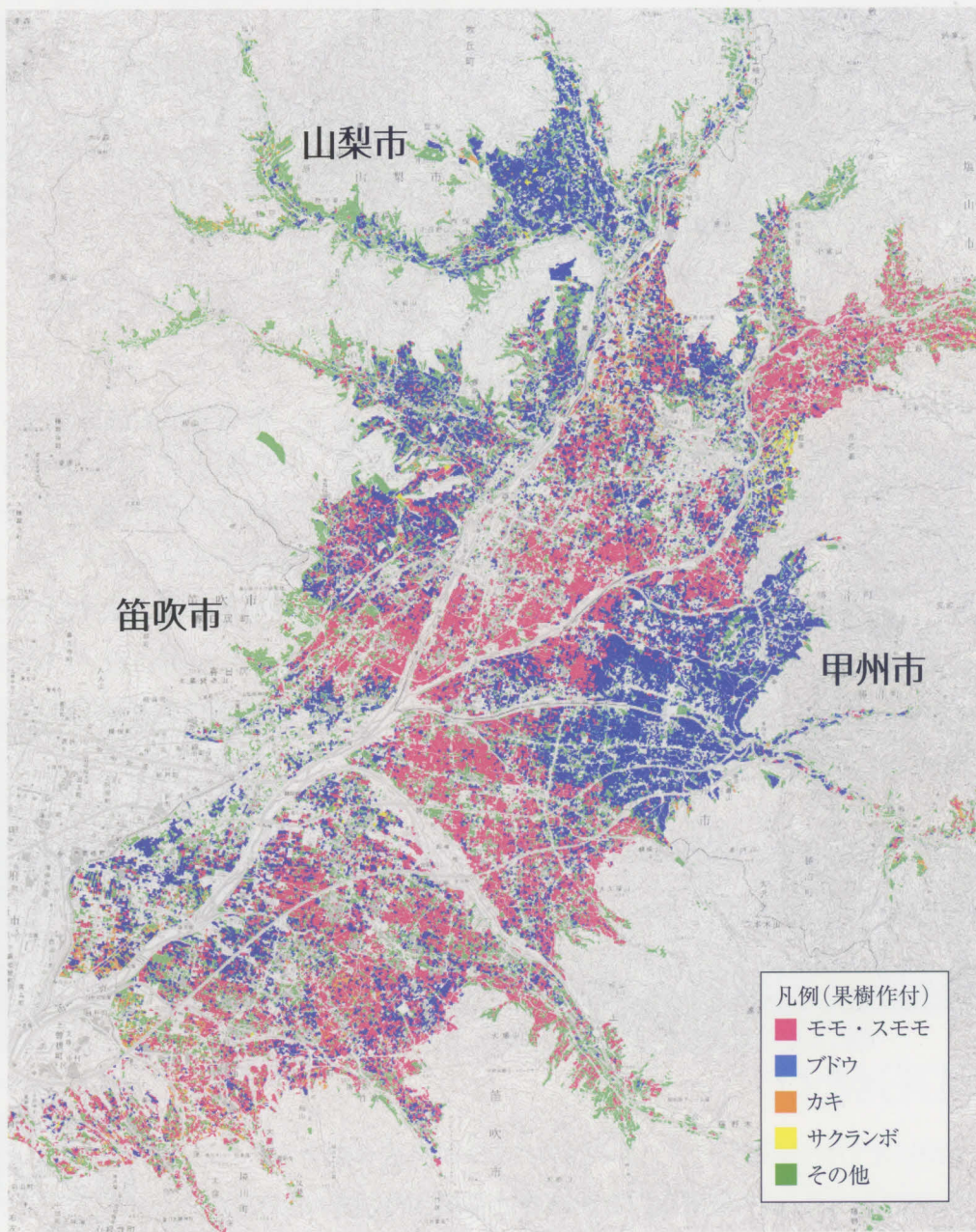
それぞれの農地の条件に適応し、巧みに利用することで、モザイク状の独特な土地利用(ランドスケープ^{※1})を形成し、多様な遺伝資源の生息域内保全にも寄与しています。

こうした人々の農の営みによる独特の土地利用は、果樹農業システムのレジリエンス^{※2}を高めるばかりでなく、周囲の里山と一体となり四季折々に美しい景観を呈し、重要な観光資源ともなっています。

※1 ランドスケープとは：

土地の上に農林水産業の営みを展開し、それが呈する一つの地域的まとまり。

※2 レジリエンスとは：復元力、強靱さ。



扇状地に適応した多様な果樹の栽培が形成するモザイク状の土地利用



扇状地の扇頂に広がるモモ畑



傾斜地に広がるブドウ棚